

# 平成 28 年度 第 2 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

上坂 貴志 栗島 聡

## Activity Report: Committee of Study Groups

Takashi Uesaka Satoshi Kurishima

研究委員会では現在 9 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 28 年 4 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

### 1. 研究会活動

#### (1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

QFD (Quality Function Deployment: 品質機能展開) の考え方を応用した要求整理方法を中心に、プロジェクト計画立案の手法, 方法論を検討しています。

#### (2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所)

本年の活動として、プロジェクトの事例を収集し、そこから効果的なリスク・マネジメントの研究手法について検討をしています。1 ヶ月に 1 回のペースで研究会を開催しています。

#### (3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

#### (4) PM 人材育成研究会

(主査: 池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

企業が戦略に基づいて、様々な経営課題を克服するために、改革や改善プロジェクトを立ち上げ、選定します (図 1)。プロジェクトとしては、業務側のプロジェクトと情報システム側のプロジェクトが存在します。業務側としては、「業務改善」、「標準化」、「人材育成」などを目的としており、情報システム側としては「既存システム改善」、「モダナイゼーション」が目的となります。ただ、最近ではプロジェクトの問題のほとんどは上流工程である「要求」に関するものであり、本来であれば経営課題を克服するために業務側がリーディングを取る必要があります。しかし、プロジェクトマネジメントに

関しては、情報システム側が知識/経験ともにあり、PM 育成に積極的ですが、業務側はプロジェクトに関して考え方ができていなく、また PM に関しての育成もあまりされていない企業も多いようです。

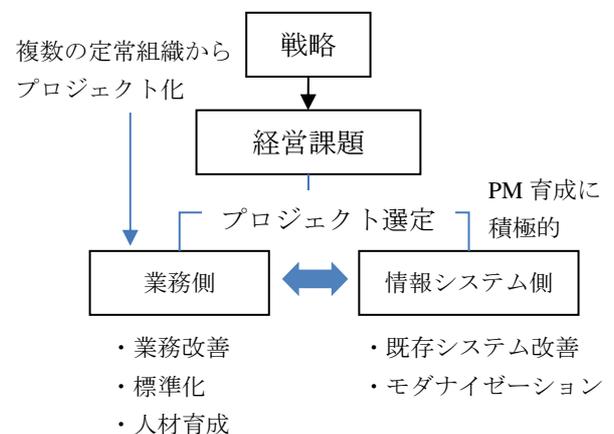


図 1 改革や改善プロジェクトの立上げ, 選定

上記の理由により、業務側でプロジェクト初期の時点でゴール、体制、役割が明確ではなく、「要求」がまとめられず、後工程であるシステム構築に影響を及ぼす可能性があります。情報システム側の母体が情報システム部門であるように、業務側が専門の改革体制を持っていればよいですが、ほとんどの場合は複数の定常組織で構成されるプロジェクトになります。その際の PM は、定常組織内から選出されます。これらの組織が常日頃からプロジェクトマネジメントに関する知識や経験があればよいのですが教育されていない可能性があります。よって今後、業務側で PM 力をつける方法を検討していきます。

今後の活動:

4, 5 月度 業務側 PM の育成 (続き)

【問い合わせ先】 pmcom2016@freeml.com

## (5) パーソナル PM 研究会

(主査：富永 章 PM ラボラトリー)

市場がモノ支配からサービス支配 (Lusch RF et al., Service-dominant Logic of Marketing, 2004) へと移って長年が経過しました。ネット時代の今日、ビッグデータを使うパーソナライズドサービスへのさらなる変遷が目立ちます。個人の真のニーズを深掘りし現実とのギャップを埋めるべく産み出された新アイデアによる、新たな CX (Customer Experience または UX=User Experience) の追求が世界中で行われています。

パーソナル PM 研究会の発足当時は、海外には正面きってこれを扱う文献が見当たりませんでした。しかし上記のようなトレンドと関連ツール発展等により、また国内では書籍出版により、次第に関心が高まったのは PM 全体にとっても良いことと感じます。また個人の体調や活動を捉える IoT センサーが種々登場しているのは、パーソナル PM が今後社会へ広がる追い風と考えられます。

そのような環境の中で、メンバー一同が活動の使命と充実感を一層感じとる一方、より自由なコミュニティ活動が行われることが今後さらに重要と考えるに至りました。本学会研究会としての活動は次回会合でいったん閉じさせていただきますが、引続き目的を目指して様々な努力を続けます。学会員の皆様には 9 年以上にわたり当研究会への特別なご関心とご支援をいただきました。ここに紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

### <直近の活動実績>

2月8日：第83回会合 SNS と個人活動、関連分野-Lakein 検討 #4, 事例発表 3 件。

3月7日：第84回会合 イノベーションとパーソナル PM, 事例発表 3 件。

### <今後の予定>

4月18日：第85回会合 IoT とパーソナル PM, 事例発表, 研究会 Closing.

## (6) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

## (7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品

質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

現在の学習・研究テーマとしては以下の 3 つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用

要求を仕様化する段階の漏れや誤りが大きな欠陥除去コストになることが知られていますが、「要求を仕様化する技術」USDMM (Universal Specification Describing Manner) によれば、要求を過不足なく記述できるようになります。また、USDMM に従った記述によれば、その記述数が有効なソフトウェア規模のメトリクスとなる可能性があります。研究中です。

今年度は USDMM によるメトリクスとして USDMM ポイントを提案し、その内容を 2016 年度春季研究発表大会で発表しました。

この論文は、具体的な仕様書 (話題沸騰ポット) (図 2) を題材として、メンバーが USDMM ポイントの他、ユースケースポイント (UCP)、ファンクションポイント (FP) を計測し、テストケース数との関係を分析しています。

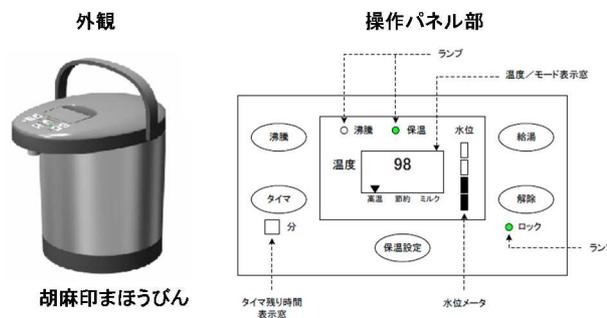


図 2 話題沸騰ポット

「R 言語の学習と活用」および「アナリティクスの手法の学習と活用」では、統計の基礎および各種のデータマイニング手法を学習する予定です。

要求の仕様化技術を学びたい方、基本的な統計を初歩から学びたい方、または、ビッグデータとそのデータ処理技術に興味がある方には参加をお勧めします。

### <今後の予定>

会合は 1 回/月を目安に開催しています。

当研究会では現時点までの活動で、Capers Jones 氏の見積りのすべて、Excel 統計、コスト評価知識体系 (CEBoK)、要求の仕様化技術、R 言語による分

析事例、データマイニング手法などのコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

#### (8) R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査：久保 裕史 千葉工業大学)

「第3回 R&D プロジェクトマネジメント・シンポジウム」(主催：千葉工大)が、2月19日金曜に千葉工大・東京スカイツリータウン・キャンパスで開催された。産業界や大学、官公庁などから85人が参加し、会場は満席の盛況であった。

本研究会は2012年6月に発足し、研究開発にPM技法を適用することで、革新的な製品やサービスを次々と産み出す仕組みや組織作りの知識体系構築を目指している。当初は研究開発(R&D)の生産性向上に力点を置いていたが、最近新しい価値を創出のための技法開発を中心に活動を進めている。その成果は、審査を経た論文13件、学会発表26件(うち国際会議8件)で公表されている。

今回のシンポジウムのテーマは、「R&D PM 4.0～顧客価値を創造する R&D プロジェクトマネジメント～」。最近、話題となっているAI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)、インダストリー4.0、クラウドなど、経済面や社会面に大きなインパクトをもたらす大潮流を先取りするテーマである。

シンポジウム全体を通じてのキーワードはイノベーションとオープン化。これらを両輪として、グローバル競争や協調環境で勝ち抜くための新ステージのR&Dマネジメントが報告、討議された。

第1セッションの招待講演は京都大学の若林直樹教授による「会社組織の知識と創造性のマネジメント」。アップル社創生期の「2人のステイブ」などの例を挙げて、アイデアの探索段階と活用段階では必要とされる研究開発のマネジメントや組織が大きく異なることを分かりやすく解説した。

2人目の招待講演者は若くして異色の起業経験をもつGOBインキュベーションパートナーズ代表の山口高弘氏。現在は精力的に多くの若手起業家を育成している。その経験に基づく独自の「0から1の新規事業の生み出し方」と題した講演は、圧倒的な迫力で聴講者を魅了していた。

第2セッションでは、本研究会の「啓蒙」(リーダー＝本学・下田篤教授)▽「定義・ツール」(リーダー＝リコー・清田守氏)▽「ステージゲート」(リーダー＝金子浩明・グロービス経営大学院教

授)▽「人材育成」(リーダー＝本学・五百井俊宏教授)の4つのワーキンググループから、それぞれの活動状況と本年度の研究成果が報告された。これら4WG活動は、本研究会活動の屋台骨であり、これまで、着実に数多くの研究成果を収めてきた。

第3セッションは、「顧客価値を共創する R&D PM4.0 とは」をテーマとするパネルディスカッション。久保主査がコーディネーターを務め、パネリストは内平直志教授(北陸先端科学技術大学院大学)▽清田守氏(リコー)▽岡田清久氏(NEC)▽林田秀樹氏(大阪大学)▽山口高弘氏の5人。それぞれの立場から、今後R&D PMが取り組むべき重要課題と提案をショートプレゼンで披露した後、パネリスト間及び聴講者を交えた熱い議論を交わした。その結果、グローバルに猛烈なスピードで競争と共創が繰り返される現在、リーン・スタートアップ的なイノベーションの創出とエコシステムのデザインは不可欠であり、それを支える仕組みとして「R&D PM 4.0」の果たす役割は大きい、との共通認識に至った。この後に開催された意見交換会も、シンポジウム参加者の半数以上の方々に参加頂き、大いなる盛り上がりを見せた。

4年間にわたって精力的な活動を続けてきた本研究会は、今年4月に閉会する。これまでに数多くの皆様方から暖かい励ましとご支援を頂いた。ここに、我々研究会メンバー一同、心より深く感謝申し上げる。

本研究会自体は、これをもって幕を閉じることになるが、R&D PMの知識体系そのものは、時代の要請に応えながら、今後も一段と進化させていく所存である。「顧客価値を共創する R&D PM 4.0」を具現化するための新たなプラットフォームづくりに、関心をお持ちの方は、ぜひ下記アドレス宛にご連絡下さい。

【問い合わせ先】 [rd-pm@googlegroups.com](mailto:rd-pm@googlegroups.com)

<直近の活動実績>

2月19日(金) 千葉工大主催 第3回 R&D プロジェクトマネジメント・シンポジウム [場所：千葉工大 東京スカイツリータウン・キャンパス]

#### (9) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査：中村太一 国立情報学研究所)

現在暫定的に隔月の例会開催になっており、1月26日の第33回定例会では、吉田憲正氏(NDSインフォス株式会社 専務取締役 東京支社長)をお招きし、「日本の情報サービス産業の品質と今後の課題」と題するお話をいただき、活発な意見交換がなされました。

吉田憲正氏は日本の IT システムの品質にふれ、“銀行業務の根幹である元帳残高の確定をリアルタイムで（即時処理）で行うことは、日本の消費者の意識では至極当然のことであるが、この仕組みを採っている銀行業界は、世界でも日本のみであり、国際的に高い品質であると言える”と述べた上で、“これは日本の社会や日本人の消費意識に適合させたサービス品質の考え方であり、海外では通用しない。銀行の業務システムが日本の情報サービス産業を牽引した結果、日本の顧客は、それに続く多くの情報サービスにも、バンキングシステムが提供する品質を求め、その結果、“ガラパゴス”の道をたどっていると考える”など日本のプロジェクトの品質に関する興味深い話題を聴くことができました。

3月10日~11日の春季大会では、“日本の常識は世界の非常識？それとも？”と題した当研究会の活動の報告を行いました。日本と欧米のプロジェクトマネジメントの文化比較の発表の後、活発な質疑応答がありました。

次回の会合は3月31日を予定しています。

## 2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

**【問い合わせ先】** pmKenkyu@jp.ibm.com

研究委員会委員長 上坂 貴志

研究委員会委員 川口 智／笠崎 裕子